

S-face

SFC makes the future through researches

経営戦略は 実学であり、科学である

琴坂 将広

VOL.

022 /100

2017.Sep 発行
和の色・杜若色



実務と研究を結び付け、広く社会に還元する

IT技術の進展による技術革新のスピード化、グローバル化による競争の激化によって、経営学が果たすべき役割は、ますます大きくなっています。

しかし、同じ「経営」をテーマとしながらも、「経営の実務」と「学問としての経営戦略」の間には、大きな隔たりが存在しています。琴坂将広准教授は、起業家、経営コンサルタント、研究者としての経験を活かし、「実務」と「研究」の橋渡しをしようと奮闘しています。

実務と研究をつなぐ 普遍的価値を探求する

私は、8年ほど実務家としての修業期間を経たのち、研究者への道を歩み始めました。実務家としての最初の4年間は、大学生活

と並行して3つの小さな会社を経営していました。その後、マッキンゼー・アンド・カンパニーに在籍してからは、日本とドイツを拠点に、10か国以上の地域で、さまざまな経営課題の解決支援を行ってきました。

コンサルタントとして、各国の企業や政

府、あるいはヨーロッパや東南アジアを起源とする多国籍企業の経営者と討論する中で、私は、「多様な国・地域で経営するための、普遍的かつ最適解は存在するのか?」という疑問に直面しました。

この疑問を抱えたままコンサルタントとし

て進むのか?それともコンサルティングの中で生まれた未解決の疑問に立ち向かうべきなのか……悩みに悩んだ末、私はマッキンゼーを退職して、オックスフォード大学のサイドビジネススクールで研究の道を志すことを決意しました。そして、「実業としての経営」に貢献することと、「学問としての経営」に貢献することは、「密接に関わりつつも異なるもの」であると確信するに至ったのです。

現在の私は、実務の最前線で戦う人々に「価値ある知見」を提供しながら、同時に、科学としての進化のために「普遍的な価値を探求する」という困難な課題に挑戦しています。

現在、取り組んでいる 3つのテーマ

現在は、「市場」と「企業」の関係を軸として、3つのテーマを柱に研究を進めています。

第1は、「国際化する市場において、企業は複雑化する環境にどのように適応していくか」というテーマです。従来、多くの日本企業にとっては、「日本市場という環境」に適応するだけで十分でした。しかし、グローバル化に伴い、多くの国々に市場を求めるようになった企業は、多様な環境に適応する必

要に迫られています。

第2は、「企業は、市場環境をどのように変化させているか」というテーマです。ほとんどの企業は、与えられた環境に適応するように行動しています。しかし、一部の企業は、環境に適応だけでなく、環境そのものを変えていくことで成長を続けています。そのような企業は、どのように環境を変えているのでしょうか。

そして第3は、「企業内に存在する市場環境は、企業の意思決定や行動に、どのような影響を与えているか」というテーマです。スタートアップ企業を中心に、創発的な経営戦略がどのように生まれ、組織内を伝播していくかについて、また事業成長や国際化をどのような要因が牽引していくかについて、さらにエコシステムと呼ばれるような、企業と個人のつながりがどのように成長し、変化していくかについて研究しています。

こうした研究を通じて、未来の組織に必要な経営のあり方と、そこに生きる実務家の姿について、多面的に議論を行っているのです。

教育者、研究者、実務家として 社会に貢献する

経営学は、人類の現実の最前線におい

て、現実をそのままの事実として捉えて理解することを求める学問です。そのため、人間社会に対する究極的な関心がなければ、根源的な価値の提供にはつながりません。しかし言い換えれば、「ある高みに達することができれば、この上なく深い洞察を得られる学問領域である」と、私は信じています。

私は現在、「研究者」「実務家（コンサルタント）」「教育者」という3つの立場から経営学に関わっていますが、それぞれの立場における「今後の目標」についてお話しします。

研究者としての目標は、「私自身が『世の中にとって価値がある』と信じる研究を発信し続け、それが多くの人に評価されること」です。ただ、評価されなくても、世の中に迎合することはしたくないと思います。

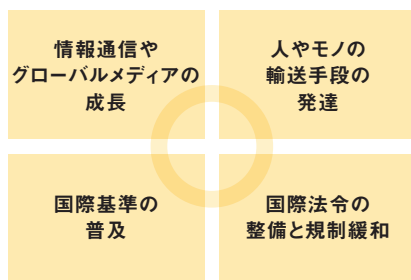
実務家としての目標は、「私が関わっているすべての実務家の方々が、私のアドバイスによって、彼らの期待以上の成功を手に入れること」。

そして、教育者としての目標は、「私の教え子たちが、私を超えるような研究者・実務家になること」です。

今後も、スタートアップの創業、成長、国際化についての知見を蓄積すると同時に、蓄積した知見を広く社会に還元することを目的として活動していきたいと考えています。

Factors that Drive Globalization

グローバル化を牽引する要因

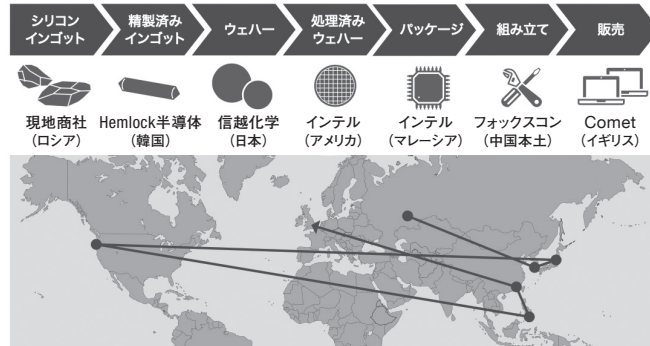


世界各地の情報を瞬時に把握することを可能にする技術の進歩、低価格で定時的かつ迅速な輸送手段の実現、技術の国際的な標準や条約などの整備が、国際経営の進化に大きな影響を与えている。

Global Value Chain

世界的な価値連鎖

シリコンからパソコンができるまでの価値連鎖の例



次世代の国際経営戦略で重要なキーワードになるのが「世界的な価値連鎖」。さまざまな国の多数の企業が連携して一つの製品を生産供給することが一般化したいま、価値連鎖において強い影響力をもつ企業こそが多くの利益を上げることができる。



Profile 琴坂 将広

慶應義塾大学総合政策学部准教授。同大学環境情報学部在学中に小売・ITの領域において3社を起業する。卒業後、マッキンゼー・アンド・カンパニーの東京およびフランクフルト拠点に在籍。北欧、西欧、中東、アジアの9か国において多国籍企業の戦略策定に関わる。オックスフォード大学サイドビジネススクールで助手を勤めながら博士学位（経営学）を取得、立命館大学を経て、2016年から現職。

詳しくはWebサイトへ

詳細インタビューや動画も
ご覧いただけます

S-face

検索



慶應義塾大学SFC研究所

慶應義塾大学 湘南藤沢事務室 学術研究支援担当

〒252-0882 神奈川県藤沢市遠藤5322

Tel: 0466-49-3436 (ダイヤルイン)

E-mail: info-kri@sfc.keio.ac.jp